



2009年7月5日

号外

民主党プレス民主編集部

〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

明日の日本 生活が第一

鳩山代表 潘国連事務総長と会談

国連重視を表明

鳩山由紀夫代表は1日、都内で潘基文国連事務総長と会談し、さまざまな問題で意見交換しました。

鳩山代表は、日米関係は二国関係で最も重要である一方、「民主党の外交政策の基本に国連重視ということがある」として、民主党は現政権以上に国連を重視する姿勢と説明しました。また、国連憲章の敵国条項について、「なくなること」が重要と考えていると述べました。

潘事務総長は、日本人のプライドにとっても大事な問題であると認識しているが、様々な改革案と同様、国連憲章の修正手続き自体が困難である現状を説明し、「実態的には、敵国条項は死んだ条項」との見解を明らかにしました。

潘事務総長は、日本が国連や国際社会に対して、平和、安全保障、人権、人道支援、開発など色々な分野で貢献をしていると指摘し、支援の継続を求める考えを示しました。また、国や党派を超えて支援を求めたいテーマとして、気候変動、食料問題、新型インフルエンザなど感染症対策、北朝鮮による核開発の問題を挙げました。さらに、日本のような技術大国が地球温暖化対策で野心的な目標を設定し、国際社会を牽引していくことを望むと、日本に強い期待感を示しました。

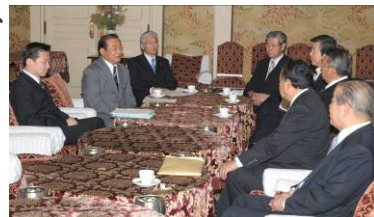
鳩山代表は、日本政府が設定した温室効果ガスの削減の中期目標について「決して満足できる数字ではない」と批判。民主党は90年比25%のマイナスを達成すべきと考えており日本の技術力をもってすれば乗り越えることができると認識しているとして述べました。



水俣病救済拡大へ 与党と合意

救済対象4症状を追加

民主党はじめ自民、公明の3党の政調会長、国対委員長らは2日、水俣病被害者救済法案をめぐる国会内で協議し、一本化し衆院環境委員長提出法案とすることで合意しました。



協議では、救済措置の対象とする症状について、従来の「四肢末梢優位（主に手足の末端付近に障害症状が強く表れ、体幹部に近づくにつれて弱くなったり、正常となっている状態）の感覚障害」に加え、「全身性の感覚障害」や「口周囲の触覚もしくは痛覚の感覚障害」「舌の二点識別覚の障害」「視野が縁のほうから、もしくは不規則に欠け視界が狭くなる「求心性視野狭さく」などの4症状追加で合意。

また、「特定事業者（現チッソ）」の分社化については、分社化の前提である事業再編計画の環境大臣認可はチッソが政府の救済措置の方針に基づく一時金の支払に同意するまでは行わないこととする修正を加えました。さらに、地域の紛争が真に解決しなければ水俣病問題の最終解決は図られないものとして「幕引き法」との印象を与えないよう、法案名から「最終」の文言を削り、法案の実体的な規定でも「最終解決」との文言から「最終」を削除し、単に「解決」と修正しました。

協議後の会見で直嶋正行政調会長は、「私もからすると100点満点とは言えないが患者の皆さんがご心配されていることを含め、かなり与党の皆さんに取り入れていただいていた一つの成果を挙げることができたと思っています」と語りました。